

ジオパークとは「地球と生命とのつながりを楽しく学べる地域」のこと。
洞爺湖有珠山ジオパークは洞爺湖や有珠山を中心に「変動する大地との共生」を学べる地域です。

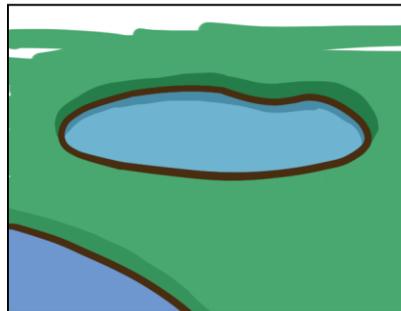
洞爺湖有珠山ジオパークの大きな見どころの一つ、洞爺湖。周囲 43 km、最大深度 180m、面積 70.7 km²のこの湖は、約 8.2 km³の水をたたえる巨大な水がめでもあります。今月は洞爺湖の成立ちと、洞爺湖を巡る水の物語について紹介します。

洞爺湖のなたち

(「洞爺湖有珠山ジオパーク野外学習テキスト」より転載)



約 11 万年前の大噴火。
火砕流が流れ広がった。
(噴火前には火山はありませんでした)



噴火でできた穴に水がたまり、
洞爺湖が誕生！



約 5 万年前、湖の中央付近で
火山活動が繰り返され、
中島が誕生。



秋のソウベツ川。サクラマスが遡上します。

洞爺湖に流れてくる水

洞爺湖に流れ込む川は、大小合わせて 40 本ほど。湖の周囲の山や台地から水が流れ込んでいます。

洞爺湖町財田地区から洞爺湖に流入するソウベツ川もその一つ。川沿いは財田親水公園として整備され、洞爺財田自然体験ハウスと併せて、洞爺湖周辺の自然学習ぴったりの場所です。毎年秋にはサクラマスの遡上が見られます。

では、こうして洞爺湖に流れ込んだ水は、どこから流れ出しているのでしょうか？

洞爺湖から流れていく水



自然の流出口、壮瞥滝。
滝の近くまで歩いて行けます。



虻田発電所。海と湖の高低差 (84m) を利用し、昭和 14 年から水力発電が行われています。

洞爺湖に集まった水は、サクラマスやヒメマス、コイ、ワカサギ、フナ等の生き物を育み、また飲料水としても利用されています。さらに、噴火湾に近く、海と湖の高低差があることから水力発電にも利用されています。

洞爺湖の水は、壮瞥町滝之町にある壮瞥滝や、洞爺湖町にある虻田発電所の水路を通して、やがて噴火湾へと流れこんでいます。

命を育み、生活を支える水。ジオパークで、水の物語をたどってみるのも、面白いかもしれません。